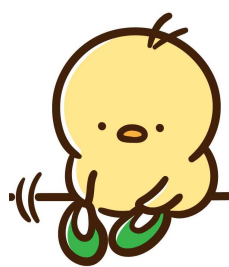


# さくら



令和6年4月30日(火)

## 脚下照顧



禅寺の玄関でよく見られる言葉です。「自分の足下(あしもと)を顧(かへり)みて照らす」という意味。自分自身の行いや心のあり方を振り返り、物事を行いなさいということです。

また、この言葉は「履物(はきもの)をきちんとそろえましょう」というメッセージとしても使われます。

明治生まれの祖父母に教えられたのは、玄関をきれいにしておくということでした。玄関の掃除ができていなかったり、履き物が揃えられておらず乱雑であれば、お客様に失礼だということです。また、玄関先を見れば、住人の心の中まで分かるとも言っていました。

小学校低学年のことだったでしょうか、学校から帰ってきて、靴を脱ぎっぱなしにして座敷へと上がったことがありました。その時、祖父に呼ばれて靴を揃えさせられたことがありました。その時、祖父が次のように言ったことを覚えています。

「靴を揃えるのに時間はかからんやろ。ほんの数秒を疎(おろそ)かにするな」

靴を揃えること。これは、その人の物の見方・考え方を正しく調える象徴的行為なのです。このような習慣をしっかりと身につけることで、人は他の事象に対しても正しい対応ができるようになると思います。

まずは、家でも学校でも履物を揃えてみましょう。それこそが、次の一步を踏み出すために大切なことなのです。

最後に、故 藤本幸邦(ふじもと こうほう) 住職(長野県円福寺)の詩を紹介します。

はきものをそろえると心もそろう	心がそろうとはきものもそろう
脱ぐときにそろえておくと	はくときに心がみだれない
だれかがみだしておいたら	だまってそろえておいてあげよう
そうすればきっと	世界中の人の心もそろうでしょう

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

